東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

決算補足説明資料

2027年3月期（2026年度）
第２四半期（中間期）決算概要

2026年11月11日

日本タングステン株式会社

目次

はじめに

当社商品の概要

2027年3月期（2026年度）第２四半期（中間期）業績概要

1. 今回発表のポイント
2. 連結業績の概要
3. 主な経営指標
4. セグメント別の状況
5. 財務の状況（連結）
6. キャッシュ・フローの状況
7. 剰余金の配当
8. 今後の見通し

参考資料

1. 業績の推移（連結）

当社商品の概要

当社商品の概要

「粉末冶金技術」を駆使し、タングステンを軸に多様な特性を持つ高機能商品を創出

1930年代　1950年代　1980年代　2000年代

粉末冶金技術

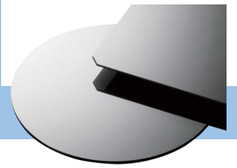
タングステンに銅や銀を組み合わせ、**通電性や耐アーク性を備えた**合金を開発

熱に強いタングステンの特徴を用いた電球フィラメントが、当社の出発点

タングステンカーバイドとコバルト等を組み合わせ、**耐摩耗性や耐腐食性に優れた**合金を開発

セラミックス製品
（セラミックス材料）

粉末冶金技術を生かし、タングステン以外のチタンやアルミニウム等からなる**緻密**なファインセラミックスを開発



ハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板

サーバー・クラウド



超硬合金製品
（タングステンカーバイド合金）



NTダイカッター



二軸混練押出機用部材「 MAZELLOY ® 」



サニタリー用品

電気･電子製品
（タングステン製品）



ブレーカー用電気接点



抵抗溶接用電極



プラズマ電極

給電端子部品

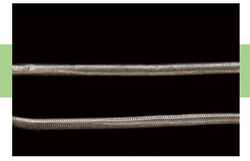
自動車の部品



金属材料製品
（タングステン製品）



電球用タングステンワイヤー製品



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品



カテーテル治療

当社商品の概要

様々な場面で暮らしを支える当社の製品

■半導体・電子部品市場

サーバーなどのハードディスクドライブの読み取り装置を支える基板や、「産業のコメ」といわれ、電子デバイスの基本材料となる半導体にも、その製造過程で当社の製品が使われている。



■衛生用品機器・医療用部品市場



カテーテル用のブレーディングチューブや電気手術用電極など、医療分野でも当社の製品が使われている。



皆様の健やかな生活を支える衛生用品の製造工程でも、当社の製品が使われている。

■自動車部品市場

先端技術を駆使した自動車の部品や、製造工程にも当社の製品が使われている。





■産業用機器・部品市場

より効率的な生産への改善や、安全面、環境面への管理に対し、信頼性の高い部品が求められています。高品質な材料を活かし、当社の様々な製品が　この分野でも活躍している。



当社商品の概要

主要な商品を成長・コア事業領域に区分しターゲットとする４市場に展開

成長事業
事業成長を加速させ、新規市場を開拓
【リソースを投資】

コア事業
収益基盤とキャッシュ創出を強化
【シェア拡大、サービス化】

機械部品事業

産業用機器・部品市場

超モノづくり部品大賞「日本力(ぶらんど)賞 受賞
ものづくり日本大賞 優秀賞 受賞



二軸混練押出機用耐摩耗部品
マゼロイ

衛生用品機器・医療用部品市場

「国内No.1・世界No.2シェア」(当社調べ)
「新材料・新ユニットを展開」



おむつなどの衛生用品製造設備用部品
NTダイカッター

半導体・電子部品市場

「世界No.1シェア」(当社調べ)



ハードディスクドライブ（HDD）用
磁気ヘッド基板

半導体製造装置
部品向け
受託加工

電機部品事業

半導体・電子部品市場

半導体製造装置に用いられる
給電端子部品

衛生用品機器・医療用部品市場



医療用
タングステンワイヤー・ロープ

自動車部品市場



電装部品溶接用
抵抗溶接用電極

2027年3月期（2026年度）
第２四半期（中間期）業績概要

1．今回発表のポイント

2027年3月期（2026年度）第２四半期（中間期）決算の総括

- 第２四半期（中間期）の連結業績は、前年同期比で大幅な増収増益。

経済環境

- 企業収益の改善や設備投資の持ち直しを背景に、緩やかな回復基調で推移。
- 物価上昇の継続に加え、米国の通商政策、中国経済の低迷、原材料の調達環境や為替動向及び中東情勢等の地政学リスクが高まっている。
- 先行きは依然として不透明な状況が続く中で推移。

ターゲット市場の概況

衛生用品機器・医療用部品市場 ↗	衛生用品機器市場：原材料価格高騰による需要の後ろ倒し等の影響があったものの、新規案件の獲得やまとまった需要等もあり、堅調に推移。 医療用部品市場　：北米地域での需要の増加や為替の影響等により、好調に推移。
半導体・電子部品市場 ↗	データセンター需要の高まりを中心とした半導体市場の増勢を背景に、好調に推移。
自動車部品市場 ↗	堅調な自動車市場の成長を背景に、電極等の部品需要の増加等により、好調に推移。
産業用機器・部品市場 ↗	機械部品事業では、需要の後ろ倒し等の影響により、勢いを欠く中で推移したものの、電機部品事業では、産業用設備向けの電気接点需要の増加等により好調に推移。

１．今回発表のポイント

今後の見通し

- 半導体関連市場や自動車市場向け需要が堅調に推移することが見込まれる一方、中国の輸出規制強化に伴うタングステン等の原材料価格は高水準で推移し、先行きは不確実性が続く状況と想定。
- 当社がターゲットとする各市場においては、半導体関連市場、自動車市場を中心に需要が堅調に推移する見込み。

ターゲット市場の見通し

衛生用品機器・ 医療用部品市場	● 衛生用品機器市場向けのＮＴダイカッター（機械部品事業）は、新規案件や大型案件の需要に加え、当連結会計年度上期から後ろ倒しとなっていた案件が下期に獲得できることもあり、堅調に推移するものと見込む。 ● 医療用部品市場向けのカテーテル用タングステンワイヤー製品（電機部品事業）は、北米地域向けの需要が引き続き好調に推移。
半導体・ 電子部品市場	● ＨＤＤ用磁気ヘッド基板および半導体製造装置部品向け受託加工（機械部品事業）は、好調な需要を維持しながら推移。
自動車部品市場	● 抵抗溶接用電極（電機部品事業）は、自動車市場向け電極需要が引き続き堅調に推移すると見込む。
産業用機器・ 部品市場	● 二軸混練押出機用の耐摩耗部品（機械部品事業）は、新規顧客の獲得に取り組んでいるものの低調に推移すると見込む。 ● 製鉄所向けの耐摩耗部材（機械部品事業）は、シェア拡大により需要が増加すると見込む。 ● 産業用設備向けのブレーカー用電気接点（電機部品事業）は、半導体製造装置向けおよび船舶向けを軸に好調に推移すると見込む。

１．今回発表のポイント

業績予想

- 中国の輸出規制強化に伴うタングステン等の原材料価格の高騰により、第３四半期以降は原価率が上昇し、収益性は低下する見込み。
- 主要市場における需要拡大を背景に、業績は前年同期を大きく上回る水準で推移するものと見込む。
- 需要動向や原材料価格の見通しを反映し、**通期業績予想を上方修正。**

配当予想

- 業績予想の修正を踏まえ、中間配当金は1株当たり60円、期末配当予想は1株当たり**30円から80円へ上方修正。**
- 年間配当金の予想額は１株当たり140円。

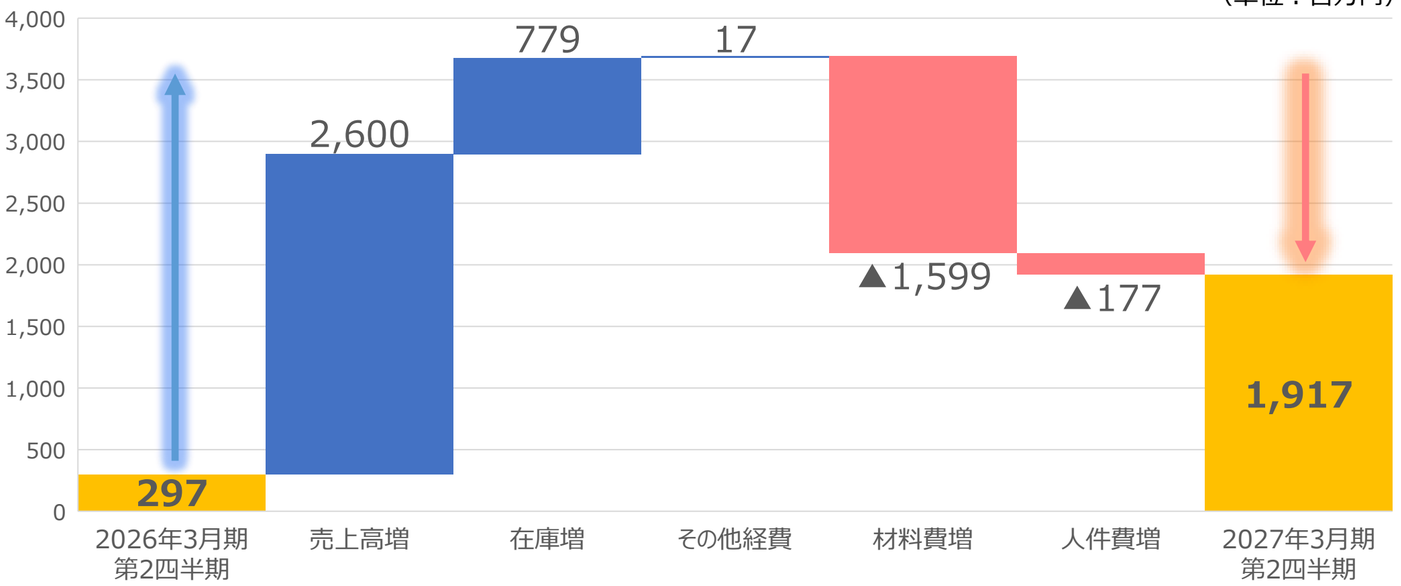
2. 連結業績の概要

（単位：百万円）

	2026年3月期 第2四半期（中間期）	2027年3月期 第2四半期（中間期）	対前年同期比 増減額	対前年同期比 増減率（%）
売上高	**6,050**	**8,650**	2,599	43.0
営業利益	**297**	**1,917**	1,620	544.6
経常利益	**440**	**1,866**	1,426	324.1
親会社株主に帰属する中間純利益	**304**	**1,286**	982	322.8

営業利益増減要因

（単位：百万円）



連結売上高

86億5千万円
(前年同期比43.0%増)

- 中国の輸出規制強化に伴うタングステン等の原材料価格の高騰および調達難が継続するなか、上昇したコストの吸収に向けた商品価格の改定を実施している状況。
- 原材料調達体制の強化による顧客への安定供給に努め、一部商品においては、ひっ迫する供給状況に起因した新たな顧客の獲得においても積極的に取り組みを実施。
- 半導体に関連する商品を中心に需要も増加しており、売上高は前年同期を大幅に上回る中で推移し、増収。

営業利益

19億1千7百万円
（ 同 544.6%増）

- 売上高増加に加え、原材料価格が高止まりする中で急騰以前に確保した原材料を使用した製品の売上原価が抑えられたこと等もあり、売上総利益は大幅な増益。

経常利益

18億6千6百万円
（ 同 324.1%増）

- 持分法による投資利益の大幅な良化や、スクラップ価格の上昇による売却益の増加等もあり、増益。

親会社株主に帰属する中間純利益

12億8千6百万円
（ 同 322.8%増）

- 経常利益の増加等により、増益。

3．主な経営指標

	2023年3月期 第2四半期 (中間期)	2024年3月期 第2四半期 (中間期)	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)	2027年3月期 第2四半期 (中間期)
売上高営業利益率（%）	9.1	5.1	6.3	4.9	**22.2**
自己資本中間純利益率（ROE・%）	4.8	3.2	3.0	2.4	**9.3**
総資産経常利益率（ROA・%）	4.6	2.7	3.0	2.5	**9.4**
1株当たり中間純利益（円）	107.26	74.71	73.21	62.69	**264.37**

各利益が前年同期比で増益となったことにより、経営指標は上昇。

（注）2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり中間純利益を算定しております。

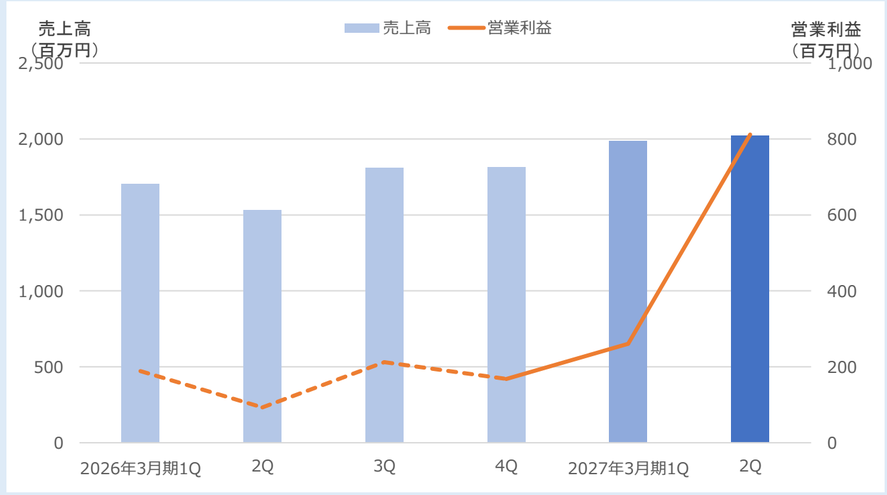
4. セグメント別の状況

■ セグメント業績の概要

（単位：百万円）

		2026年3月期 第2四半期（中間期）	2027年3月期 第2四半期（中間期）	対前年同期比 増減額	対前年同期比 増減率（%）
機械部品事業	売上高	**3,232**	**4,004**	771	23.9
	営業利益	**281**	**1,072**	790	280.6
電機部品事業	売上高	**2,828**	**4,653**	1,825	64.5
	営業利益	**304**	**1,151**	846	277.8
調整額	売上高	**△9**	**△6**	2	－
	営業利益	**△289**	**△306**	△17	－
全社	売上高	**6,050**	**8,650**	2,599	43.0
	営業利益	**297**	**1,917**	1,620	544.6

機械部品事業

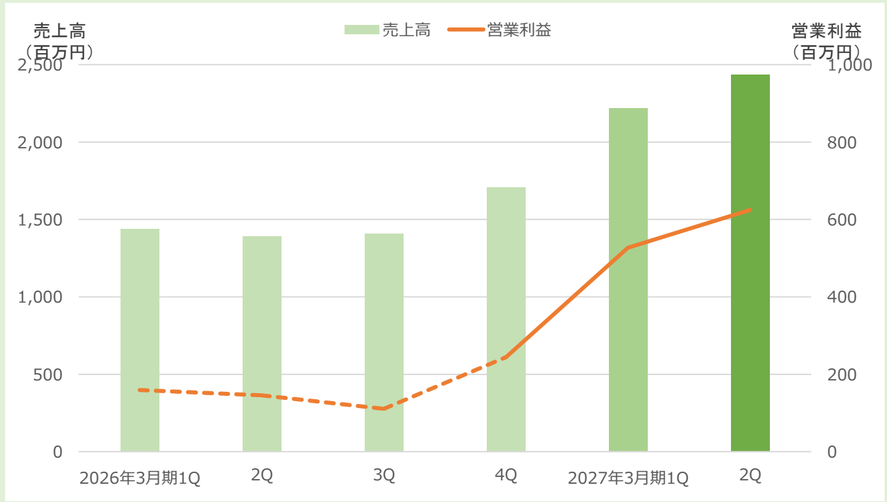


	2026年3月期 第2四半期(中間期)	2027年3月期 第2四半期(中間期)
売上構成比	**53.3%**	**46.2%**
営業利益率	**8.7%**	**26.8%**

前年同期比
- 売上高は、23.9%の増収
- 営業利益は、280.6%の増益

四半期推移
- 売上高は、好調に推移しており、営業利益も上昇。

電機部品事業



	2026年3月期 第2四半期(中間期)	2027年3月期 第2四半期(中間期)
売上構成比	**46.7%**	**53.8%**
営業利益率	**10.8%**	**24.7%**

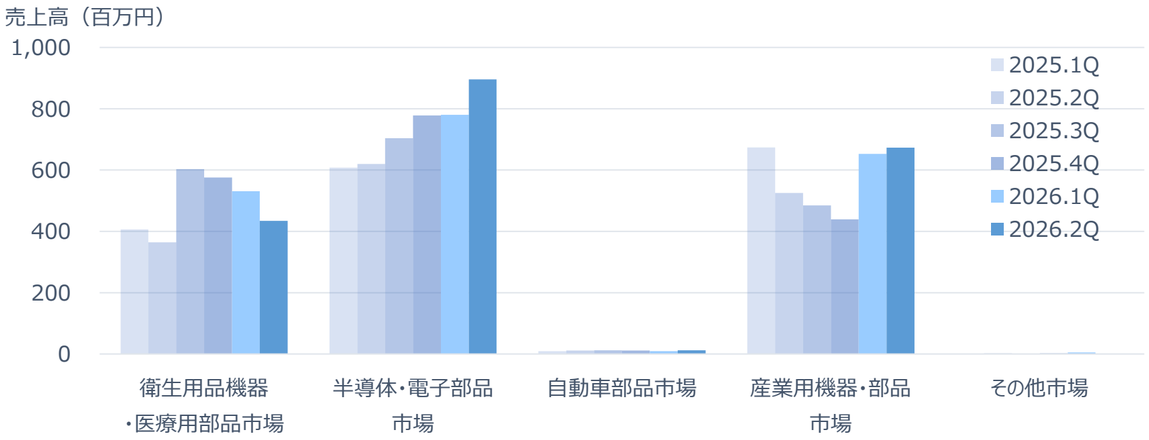
前年同期比
- 売上高は、64.5%の増収
- 営業利益は、277.8%の増益

四半期推移
- 売上高は、好調に推移しており、営業利益も上昇。

４．セグメント別の状況

機械部品事業

ターゲット市場別売上高の四半期推移





NTダイカッター



HDD用磁気ヘッド基板



二軸混練押出機用の耐摩耗部品

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

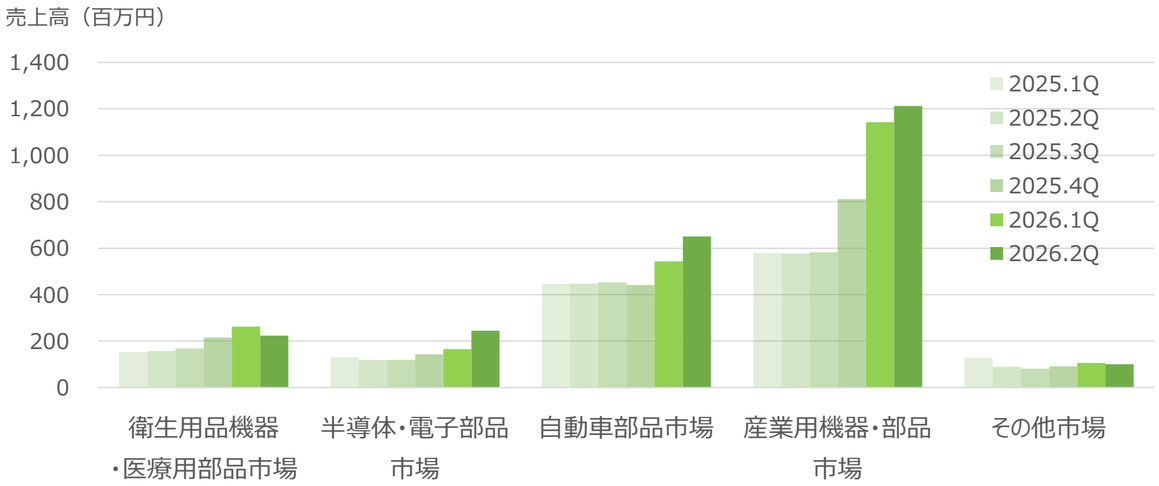
ターゲット市場の主要な商品の状況

増収 衛生用品機器・医療用部品市場	**ＮＴダイカッター**（おむつなどの衛生用品製造設備の部品） 一部で原材料価格の高騰の影響等により、需要が後ろ倒しになっているものの、新規案件の獲得や、大人おむつ用途においてまとまった需要を獲得するなど、堅調に推移
増収 半導体・電子部品市場	**ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板**（情報機器関連部品） データセンター等で使用される大容量ＨＤＤの需要の増加により好調に推移 **半導体製造装置部品向け受託加工** 半導体製造装置向け需要の増加を背景に、好調に推移
増収 産業用機器・部品市場	**製鉄所向けの耐摩耗部材** 原材料の調達環境が厳しい中、安定供給やシェア拡大に努めたものの、前年同期をやや下回った **二軸混練押出機用の耐摩耗部品** 市場参入を進める二次電池製造用途向けの耐摩耗部品は、原材料価格の高騰の影響やEV市場の減速を背景に需要が後ろ倒しとなり、低調に推移 **産業機器関連向け設備** 自動化設備や半導体設備向け案件等の需要の増加を背景に、好調に推移

４．セグメント別の状況

電機部品事業

ターゲット市場別売上高の四半期推移





医療関連ｶﾃｰﾃﾙ用
ﾀﾝｸﾞｽﾃﾝﾜｲﾔｰ製品



抵抗溶接用電極



ブレーカー用
電気接点



各種製造装置用
プラズマ電極

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

ターゲット市場の主要な商品の状況

増収 衛生用品機器・医療用部品市場	**カテーテル用タングステンワイヤー製品**（医療用関連部材） 北米地域向けでは、需要の増加に加え、為替の影響により好調に推移したことや、原材料価格の高騰を価格改定で吸収したことにより前年同期を上回りながら推移し、その他の地域向けでも堅調に推移
増収 半導体・電子部品市場	**半導体製造装置に用いられる給電端子部品** データセンター関連市場の活況を背景に、第２四半期以降受注が増加し、好調に推移 **各種製造装置用プラズマ電極** データセンターにおけるAIサーバーの増産を背景に電極の需要が大幅に増加し、好調に推移
増収 自動車部品市場	**抵抗溶接用電極**（電装部品溶接用） 自動車市場の需要の増加を背景に好調に推移したことや、原材料価格の高騰を価格改定で吸収したことにより、前年同期を上回りながら推移
増収 産業用機器・部品市場	**ブレーカー用電気接点**（産業用設備向け） 半導体製造装置向けおよび船舶向けの電気接点需要が好調に推移したことや、原材料価格の高騰を価格改定で吸収したことにより、前年同期を大幅に上回りながら推移

5. 財務の状況（連結）

（単位：百万円）

	2026年3月期	2027年3月期 第2四半期（中間期）	対前年比 増減額
総資産	**18,931**	**21,696**	2,765
負債	**5,587**	**6,930**	1,343
純資産	**13,343**	**14,765**	1,421

主な経営指標

	2026年3月期	2027年3月期 第2四半期（中間期）
自己資本比率（%）	**70.4**	**68.1**
1株当たり純資産（円）	**2,745.22**	**3,030.82**

		主な増加要因（単位:百万円）		主な減少要因（単位:百万円）
総資産	**216億9千6百万円** (前連結会計年度末比27億6千5百万円増)	原材料及び貯蔵品 電子記録債権	+1,404 +662	–
負債	**69億3千万円** (同13億4千3百万円増)	短期借入金 未払法人税	+700 +482	–
純資産	**147億6千5百万円** (同14億2千1百万円増)	利益剰余金	+1,165	–

6. キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

	2026年3月期 第2四半期（中間期）	2027年3月期 第2四半期（中間期）	対前年同期比 増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	**849**	**△878**	△1,728	（収入減）
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△239**	**△279**	△39	（支出増）
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△132**	**567**	699	（支出減）
現金及び現金同等物に係る換算差額	**12**	**△7**	△20	
現金及び現金同等物の期末残高	**3,780**	**2,597**	△1,183	

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により獲得した資金　△8億7千8百万円　（ 前年同期比 17億2千8百万円の収入減）
▶主に税金等調整前当期純利益が増加したものの、売上債権及び棚卸資産が増加したことによる

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金　△2億7千9百万円　（ 同 3千9百万円の支出増）
▶主に有形固定資産の取得による支出が増加したことによる

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金　5億6千7百万円　（ 同 6億9千9百万円の支出減）
▶主に短期借入による収入が増加したことによる

７．剰余金の配当

剰余金の配当等の決定に関する方針

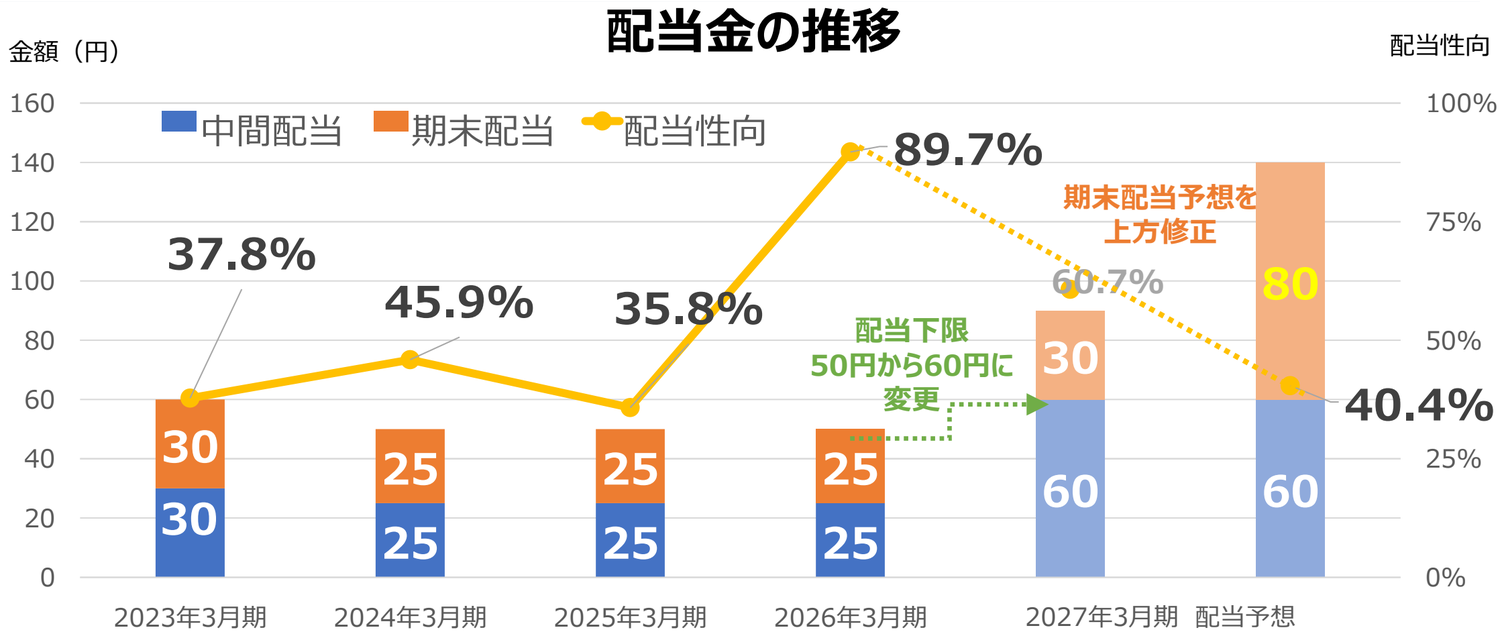
当社は株主の皆様への利益還元について、新製品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、原則として、年間の１株あたり配当額60円を下限として、親会社株主に帰属する当期純利益の40%を目安とした安定的・継続的な配当を実施するよう努めます。 また、１株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。

なお、著しい経営環境の変化などの特殊要因により、親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、配当金の見直しを検討するものとします。

剰余金の配当（中間）

■中間配当は、2026年８月５日に修正公表した中間配当予想の通り、１株当たり60円（普通配当）
■中間配当金の支払開始日は2026年12月4日

基準日	2026年９月30日
１株当たり配当金	60円00銭
配当金総額	２億９千２百万円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2026年12月4日
配当原資	利益剰余金



（注） 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定しております。

８．今後の見通し

今後の見通し

- 半導体関連市場や自動車市場向け需要が堅調に推移することが見込まれる一方、中国の輸出規制強化に伴うタングステン等の原材料価格は高水準で推移し、先行きは不確実性が続く状況と想定。
- 当社がターゲットとする各市場においては、半導体関連市場、自動車市場を中心に需要が堅調に推移する見込み。
- 損益面では、高値水準で調達した原材料の使用等により原価率が上昇し、収益性は低下する見込み。

業績予想

- 今後の需要や原材料価格の予測等を踏まえ、2026年８月５日に修正公表した**2027年3月期通期の連結・個別業績予想を上方修正。**

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

連結業績予想	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	↗ 百万円	%	↗ 百万円	%	↗ 百万円	%	↗ 百万円	%	↗ 円 銭
通　期	17,900	19.3	2,290	213.7	2,450	142.6	1,690	134.7	347.94

配当予想

- 期末配当金につきましては企業成長を支える投資等の状況を注視しながら慎重に検討してまいりますが、現時点では、配当性向40%を目安とした**期末配当予想を1株当たり30円から80円へ上方修正。**

	年間配当金			配当性向(連結)
	中間(確定)	期末(予想)	合計	
2027年3月期	60円	↗ 80円	140円	40.4%

参考資料

１．業績の推移（連結）

経営成績（連結）

（単位：百万円）

区分	2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）	2026年3月期 第2四半期（中間期）	2027年3月期 第2四半期（中間期）
売上高	6,611	5,669	6,309	6,050	8,650
営業利益	602	289	397	297	1,917
経常利益	756	457	523	440	1,866
親会社株主に帰属する中間純利益	518	361	354	304	1,286
純資産	11,226	11,748	12,308	12,839	14,765
総資産	16,953	17,239	17,558	18,000	21,696

経営指標（連結）

区分		2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）	2026年3月期 第2四半期（中間期）	2027年3月期 第2四半期（中間期）
売上高営業利益率	（%）	9.1	5.1	6.3	4.9	22.2
自己資本中間純利益率（ROE）	（%）	4.8	3.2	3.0	2.4	9.3
自己資本比率	（%）	66.2	68.1	70.0	71.3	68.1
1株当たり純資産（BPS）	（円）	2,318.81	2,423.26	2,535.87	2,641.38	3,030.82

（注）　2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

ご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。